

<造化の妙—その 2>シロバナホトトギスに続いて薄紫の花弁に斑点のあるホトトギスが数株咲いています。野鳥のホトトギス（杜鵑、不如帰、時鳥）の胸にある斑点になぞらえてこの名があります。花の形はシロバナホトトギスと同じく凝っていますね。

ホトトギスの花の凝りようにも増して何とも不思議な花がビオトープの流れと池の畔に沢山咲き出しました。ツリフネソウです。蕾から花が開いていく時にまずくるっと丸まった尻尾を出して 90° ほど廻り、開いた花はランタンとか帆かけ舟が中ほどで細い糸にぶら下げられたようになります。色も赤紫と薄いピンクでとても美しい花です。さらには大きな昆虫が蜜を



<ホトトギス>

吸えないように入り口をブロックしています。“造化の妙も極まれり”です。蕾、開きかけの



<ツリフネソウの蕾と花>

蕾、十分に開いた花の横からと前からの姿をとくにご覧ください。



<正面から見たツリフネソウの花>

<紫敷き実>ツリフネソウの色から連想される秋の稔りはムラサキシキブです。紫敷き実という元の名のごとくびっしりと実が付くはずだったのですが、虫と台風のせいで今年の秋の稔りはマバラになってしまいました。でも艶のある明るい紫の小さな実が朝日に輝く姿は素敵ですよ。



<ムラサキシキブの実>

<稔りの秋>にふさわしく豊作なのがドングリです。



<コナラのドングリ>

下の写真は池の東斜面に植わっているコナラのドングリです。ビオトープの脇には大きなクヌギやシイの木もあり、いっぱい実を付けていました。とりわけシイの木はこのところの二度の台風で沢山の実を落とし、白い小石とともに池までの小径を覆っています。それでも木にはまだ多くの実が残っているようで、葉の騒ぐほどでもない風で、はらはらと実の落ちて来るのが木の下にいとわかります。 (文と写真： 松本正勝)